

たましい やくそく  
魂の約束

だいちちきと  
醍醐千里

わたし う 生まれるとき、 かみさま たましい  
私たちは生まれるとき、神様から魂をいただきました。  
みんなその たましい しぶん ま  
みんなその魂を、自分の真ん中においています。

たましい みが みが ひか  
魂は磨けば磨くほど光ります。

かんじ れんしゅう いっしょうけんめい  
漢字の練習を一生懸命しました。  
たましい きのう ひか  
魂は昨日より光ります。

でんしゃ せき  
電車でおじいさんに席をゆずりました。  
たましい きのう ひか  
魂は昨日より光ります。

おとうと  
弟におやつをあげました。  
たましい きのう ひか  
魂は昨日より光ります。

きょう  
今日はごめんねが言えました。  
たましい きのう ひか  
魂は昨日より光ります。

ひと  
あの人にありがとうが言えました。  
たましい きのう ひか  
魂は昨日より光ります。

どりょく だれ なに やさ  
努力をすることや、誰かや何かに優しくすることは、  
たましい みが  
魂を磨きます。

けれど、  
どりょく やさ  
努力をすることや、優しくすることだけではなく、  
たの たましい ひか  
楽しいこと、うれしいことも、魂を光らせることが分かりました。

とも たの おおわら  
友だちと楽しく大笑い。  
たましい きのう ひか  
魂は昨日より光ります。

お誕生日のプレゼント。  
魂は昨日より光ります。

楽しいことやうれしいことも魂を磨くと知って、  
私はなんだかホッとしました。

ある日、そうじをさぼって友だちと遊びました。  
友だちと楽しく大笑い。  
けれどその日、自分の中の魂を見て驚きました。

あんなに楽しく笑ったあとだったのに、  
魂は、光るどころかくもっているのです。

ある日、友だちからネックレスをもらいました。  
お店から盗ってきたネックレスだと言います。  
ほしかったものなので、よく考えもせずそれを受け取りました。

その夜、魂を見てみたら、その日もまた魂は、  
昨日よりくもっていました。

ある日、一人が言いました。

ねえ、あの子、はぶかない？  
あっという間に、その子はひとりぼっちになりました。  
私は、その子をひとりぼっちにさせる側にいました。  
その輪の中で私には、急に仲間が増えました。  
新しくできた仲間とともに、  
おもしろおかしく過ごしました。

そんな日々を送る中、私は久し振りに、自分の中の魂を見てみました。

私の魂は真っ黒になっていました。  
私は、自分の魂の色を見て、とてもおそろしくなりました。

たの  
楽しいこと、うれしいことの中なかにも、  
たましい  
魂たましいをくもらせること、  
たましい にご  
魂たましいを濁にごらせることもあるとわわかりました。

たの  
楽しいこと、うれしいことには、  
に しゅるい  
二種類にあるとわわかったので、  
これからは、きをつけていかなければならないと思おもいました。

＊

まいにちたましい みが  
毎日魂まいにちたましいを磨みがき、  
まいにちたましい ようす み  
毎日魂まいにちたましいの様子ようすを見ているうちに、  
わたし ふしぎ  
私わたしは不思議ふしぎなことにきがつきました。

みが  
磨みがいたつもりのない日ひでも、  
たましい かがや  
魂たましいの輝かがやきが、増ましているときがあるのです。

そういう日ひの一日いちにちを振り返かえってみると、  
その日ひは、きれいな花はなを見たり、うつくしい夕ゆう焼やけを見たり、  
そういう日ひだったことがわわかってきました。

えいが み  
映画えいがを見たり、ほん よ  
本ほんを読よんだり、おんがく き  
音楽おんがくを聴きいたり。

そういうことでも たましい みが  
魂たましいを、磨みがくことができるのです。

たの  
楽しいことやうれしいこと、  
め けしき  
目にした景色めや、聞こえてくるメロディ、あたたかな言ことば葉は。  
その日ひその日ひのなんでもないことも、  
わたし たましい みが つづ  
私わたしの魂たましいを磨みがき続けてくれたのです。

＊

できるだけ魂を光らせようと、毎日を送っていましたが、  
ある日、私は少しだけ疲れてしまいました。

夢の中で私は、神様に会いました。

夢の中で私は、神様に聞いてみました。

神様、私はいつまで魂を磨けばいいのですか。  
私の魂は、いつ完璧に美しくなるのですか。

神様は言いました。

あなたは、あなたの最後のひと呼吸まで、  
魂を磨き続けなさい。  
みんなその約束をして、地上に生まれているのですよ。

でも、神様、磨き終わらないうちに、最後のひと呼吸がきたら、  
どうすればよいのですか。

心配しなくて大丈夫。  
あなたの魂は、最後のひと呼吸のとき、  
必ず、最高の光を放ちます。

神様、私にはその自信がないのです。

あなたは、毎日魂を磨いています。  
だから大丈夫。  
最後のひと呼吸のとき、魂はそれまでで一番美しい姿を見せてくれます。  
何も心配いりませんよ。  
あなたの魂は毎日、昨日より輝きを増しているのです。  
ときどき、自分の魂を、離れたところから見てごらんください。  
あなたの魂があなたの体を越えて、  
まわりに光を与えていることにも、気づくことができるでしょう。  
このごろでは、あなたの魂の輝きで、道を明るくする人も増えてきました。

さあ、戻<sup>もど</sup>って、魂<sup>たましい</sup>を磨<sup>みが</sup>いてきなさい。  
毎日<sup>まいにち</sup>を楽しくうれしく感謝<sup>かんしゃ</sup>の気持ち<sup>きもち</sup>で送<sup>おく</sup>るのですよ。  
そうするとあなたの魂<sup>たましい</sup>は、キラキラと光<sup>ひかり</sup>を強<sup>つよ</sup>くしていきます。

あなたがここ<sup>こ</sup>に来<sup>く</sup>るのは、まだまだず<sup>ず</sup>とず<sup>ず</sup>と先<sup>さき</sup>。  
あなたの人生<sup>じんせい</sup>を、楽<sup>たの</sup>しんでいらっしやい。

あなたがどんなに素晴<sup>すば</sup>らしい魂<sup>たましい</sup>を持<sup>も</sup>って、ここ<sup>こ</sup>に帰<sup>かえ</sup>ってくるか、  
私<sup>わたし</sup>はそれ<sup>その</sup>を楽し<sup>たの</sup>しみにしています。

＊

目<sup>め</sup>が覚<sup>さ</sup>めた私<sup>わたし</sup>は、それ<sup>その</sup>まで気<sup>き</sup>づかなかったことに気<sup>き</sup>づきました。

きのう<sup>きのう</sup>より今日<sup>きょう</sup>。  
今日<sup>きょう</sup>より明日<sup>あした</sup>。

私<sup>わたし</sup>の魂<sup>たましい</sup>は輝<sup>かが</sup>きを増<sup>ま</sup>し続<sup>つづ</sup>け、毎日<sup>まいにち</sup>新<sup>あたら</sup>しく生<sup>う</sup>まれ変<sup>か</sup>わります。  
そして必<sup>かな</sup>らず、その日<sup>ひ</sup>の魂<sup>たましい</sup>が一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>光<sup>ひか</sup>る魂<sup>たましい</sup>。

少<sup>すこ</sup>しの努<sup>どり</sup>力<sup>りよく</sup>、優<sup>やさ</sup>しい気<sup>き</sup>持<sup>もち</sup>ち  
そして  
うれい<sup>たの</sup>しいこと、楽<sup>たの</sup>しいこと。  
日<sup>ひ</sup>々<sup>び</sup>の中<sup>なか</sup>に散<sup>ち</sup>りばめられた美<sup>うつく</sup>しいもの。

神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>との約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>を思<sup>おも</sup>い出<sup>だ</sup>したので、  
私<sup>わたし</sup>は、なん<sup>なん</sup>にも心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>しないで、  
毎日<sup>まいにち</sup>を送<sup>おく</sup>っていくことができそうです。

なん<sup>なん</sup>にも心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>しなくても、  
私<sup>わたし</sup>の魂<sup>たましい</sup>は、昨日<sup>きのう</sup>より光<sup>ひか</sup>ります。

光<sup>ひか</sup>り続<sup>つづ</sup>けます。

(完)

20年間の教員生活で、生徒に伝え続けてきたことを書きました。  
一人でも多くの子どもたちに届けてくださったら、嬉しいです。

連絡先 [chisa-3@rapid.ocn.ne.jp](mailto:chisa-3@rapid.ocn.ne.jp)

H P <http://www.chisato7.com>

醍醐 千里